

平成 30 年度 第 2 回学校評議員会

- 1 日 時 平成 31 年 2 月 18 日 (月) 14 : 40 ~ 15 : 40
- 2 場 所 本校第一会議室
- 3 出席者 学校評議員 4 名 (1 名欠席)
校長、副校長、事務長、総務主任、教務主任、生徒指導主事、
進路指導主事、機械科主任、電気電子科主任、建築設備科主任 計 14 名

4 次 第

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ

日頃より、多大なるご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

再来年度の宮古商業との統合について、校名は「宮古商工高校」、統合形態は独立型校舎制と決定した。学科は、それぞれ 1 学級減となり、本校は機械科と建築設備科を一つにまとめ、教育課程を編成する。高校入試の志願者数について、推薦入試は 3 名となり昨年より 2 名増え、3 月 6 日の一般入試は 63 名となり昨年より 8 名増えた。推薦・一般の合計では昨年より 10 名増加した。

魅力ある学校づくりの推進のため、忌憚のないご意見、ご提言をいただきたい。

(3) 報告

- ア 学校経営計画評価について (校長)
学校経営計画評価指標に基づき説明。
- イ 学校評価 (生徒・保護者・教職員) について (生徒指導主事、総務主任、副校長)
学校自己評価資料 (学校評価アンケート結果) により説明。
- ウ 進路状況について (進路指導主事)
進路状況資料及び定着状況アンケート結果により説明。

【A 学校評議員】

中学校でも、地域や保護者から信頼される学校を目標に掲げている。学校評価アンケートにおいて、保護者からの評価が 32 項目中 22 項目で上昇しているが、昨年より評価が伸びた理由や取組を教えていただきたい。

【校長】

評価は 3 つの項目で一番伸びているが、保護者から信頼される学校を目指して、全体で共通認識を図っている。今年から、校報「山ぼうし」は校長からのメッセージや各学年の活動等を先生方で分担して作成し配布してきた。また、入学式や P T A 総会などで意識的に学校経営目標を説明するなど、学校全体で取り組んできた。

【B 学校評議員】

学校ホームページの P T A 役員が 29 年度のままである。更新したほうがよい。

【C 学校評議員】

生徒の学校評価で気になったのは、最も低い「不十分」の評価をつけた生徒が 10 名いる 3 つの項目である。この 10 名は、学科・クラブなどに偏りがあるのか。このことをひもといて行くと、特定の集団であったなど改善につながるのではないか。

【生徒指導主事】

全体的な分析しか行っていない。部活動については、一生懸命取り組んでいる生徒がいる一方で、参加していない者もいるため、低い評価となった可能性がある。

【D 学校評議員】

教職員の明るい職場づくりの部分で、各企業では働き方改革について動き出しているが、工業高校では多忙化解消のための具体的な取組はあるのか。また、タイムカードの導入時期や導入することが改善策の一つとなるのか伺いたい。

【副校長】

統合に係る業務が加わり、分掌主任の負担が増加する傾向にある。多忙感を感じている教職員もいるため、次年度の校務分掌の編成では、業務の分担化をより進めたい。タイムカードは、昨年 8 月 1 日から実施している。方向性として、タイムカードによる客観的な時間の管理が必要であるが、部活動の時間管理が難しい。

【B 学校評議員】

生徒の学校評価結果分析の課題の中で、「不本意入学した生徒への指導が重要」とあるが、不本意入学とはどのような生徒を指しているのか。また、進路変更もあるのか。

【生徒指導主事】

専門高校であるため、自分の生き方などはっきりとした目標を持って入学してくる生徒が多い。一方、何となく入学してから目標を見つけようとしている生徒も若干おり、適応が難しい場合がある。今年度は、2 名が進路変更をしている。

【B 学校評議員】

生徒の記述集計でトイレ掃除の不備について記入されているが、清掃は学年の割当で行われていると思う。トイレ掃除は生徒たちで行われているのか伺いたい。

【生徒指導部長】

特にも、部室のトイレは古いタイプであるため、生徒が掃除を行っているものの、不十分なところがあると思われる。

【C 学校評議員】

求人数が急激に増えているが、特徴を教えてほしい。業種で増えたものはあるのか。

【進路指導主事】

今までは関東で止まっていたが、名古屋・大阪方面からの求人が増えた。秋田も増加しており、広範囲にわたっている。業種については、主に製造業である。

(4) 意見交換

【A学校評議員】

学校評価の分析等から生徒の頑張りを肌で感じることができた。津軽石学区は、小学校2校・中学校・工業高校と小中高の3つの校種が揃っている。その中で、工業の生徒の姿は、小学生や中学生に大きな影響を与える。リーダー性を発揮してボランティア活動を実施できるのは、意義のあることと思う。震災以降続いている事業なので、来年度以降も是非ボランティア活動を続けていただきたい。また、統合に係る長野の先進校の視察において、岩手にはない取組があれば伺いたい。

【副校長】

統合してから4年経過した校舎制の学校を視察してきた。農業科と工業科の校舎、総合学科の校舎を有している学校である。職員の体制は、それぞれの校舎で校務分掌を独立させて運営している。生徒に関しては、生徒会はそれぞれであるが、部活動は一緒である。2台のマイクロバスで移動して、同じ校舎で活動している。行事は基本的に別々だが、クラスマッチは学年ごとにどちらかの校舎に集まって実施している。

【B学校評議員】

生徒と先生の関わりが、学校評価の結果を見て上手くいっていると感じた。職場では、コミュニケーションが大事であり、人間関係で悩む場合もあるので、今後とも指導をよろしくお願ひしたい。

【C学校評議員】

おおむね目標通りに学校がよくなっていると感じる。ただし、統合に向けてさらに先生方が忙しくなるため、どのように解消して行けるかが心配である。地域企業として手伝えることがあれば、声を掛けていただきたい。

【D学校評議員】

今後、より多忙化が進むと思われるので、先生方の負担を少しでも軽くするために関わらせていただきたい。進学も増えており、いろいろな高校やマレーシアとの交流事業も行われているようであるが、フェリーも就航したので、室蘭工業大学などとの交流を深めて何か一つでも気付きを得てもらいたい。

【副校長】

学校評議員の任期は、県の設置要綱により3年までできることになっている。学校評議員の皆様には、来年度も是非継続をお願いしたい。

(5) 閉会のことば（副校長）